



棚橋プロのワンポイント講座

Vol.2 ドリラーはボウラーのかかりつけ医

棚橋孝太(たなはし・こうた) / 46期 / 高知県出身 / タイトル1 / JOC強化スタッフ・日本スポーツ協会公認指導員・USBCシルバーコーチ・JBC公認ドリラー

今月は、ボウリング上達のために「ボールを選ぶ前にドリラーを選ぶ」ことの大切さについて書きます。

みなさんがボウリングを始めるとき、まずはボウリング場の貸し靴からスタートし、自分のシューズを買う。ハウスボールから始まり、自分のボールを買うと思います。

シューズは買ってそのまま使用できますが、ボールはそのままでは投げられません。ドリラーに指穴をドリルしてもらってはじめて投げられますよね。

ドリラーという仕事は、ただ穴をあけるだけでよいわけではありません。そのボウラーにとってボールの重さは適切であるかどうか、指や腱を痛めないかどうか、ボウリングをより楽しんでいただくために、ボウラーが自分のボールを作ってよかった、ボールが曲がるようになった、今までよりストライクが出るようになったなど、ハウスボールから自分のボールを作ってよかったという感動を与えなければなりません。

さらにボウリングが上達していくと、あなたの投げ方や癖を

理解し、あなたに合ったボールを、レーンコンディション等に合わせた考え、その対処方法もアドバイスしてくれる、戦術家のような役割もしてくれることでしょう。あなたのボウリングが上達する過程において欠かせない存在、それがドリラーなのです。



ドリラーの存在が上達のカギ

あなたがボールを買おうとするとき、何を基準に選びますか？ 広告を見て買いますか？ プロが投げているから？ 知合いの評判を聞いて？

他の人にとってよかったものが、必ずしも自分にとって使い勝手がよい、または希望どおりのリアクションを期待できると

は限りません。買ったあとで、自分の思っていたイメージと違うと思ったことはありませんか？ ボールを選ぶ前に、あなたにとってのかかりつけ医のような、相談に乗ってくれるドリラーを探しましょう。最初は自分にとって、どのドリラーがいいかわからないと思います。厳密に言えば、ベベルの取り方(指穴の角の削り方)もドリラーによって個性があります。このことについては、今後詳しく触れてみたいと思います。

私自身、だれにドリルしてもらったらいいですか？ と質問を受けることがあります。しかし、その相談された方の近くにいるドリラーが、実際にどのような仕事をするのかを見たことがなければ、判断することはできません。

ドリラーにもそれぞれ環境や経験の差がありますが、ひとつだけアドバイスをするとすれば、いちど自分の疑問や悩みを相談してみることです。あなたにとってよいドリラーは、きっとあなたの疑問や悩みに、丁寧に答えてくれると思います。

Dr. 塚田の健康コラム

ちょっと役立つ

感染予防には手洗いを励行



塚田芳久 昭和54年新潟大学医学部卒業。平成17年から新潟県立十日町病院長。平成28年から新潟県立新発田病院長。平成15年から新潟県ボウリング連盟会長。平成20年4月からJBC理事。日本協公認スポーツドクター。JOC医・科学強化スタッフ。

ボウリング愛好者は、投げ終えてから手を洗う習慣がありますよね。この手洗い習慣は、手に付いたオイルを洗い流すだけでなく、感染対策の標準予防策のひとつとして大切です。

ウイルスや細菌は、目に見えない上に、感染症状はあとからくるので、不気味で怖い印象があります。しかし細菌はもちろん、わずかに空気感染するインフルエンザウイルスでさえ、ほとんどは手指からの接触感染です。守りの要は手洗いということです。

逆に風邪などにかかったら、他人にうつさないために、咳やくしゃみの飛沫をまき散らさない咳エチケットを実行してください。

マスクがなくても、咳が出そうになったら、口や鼻をティッシュペーパーか前腕で押さえることも、咳エチケットです。咳やくしゃみで、飛沫は2メートルも

飛び散ります。風邪の流行った時期の小児科の待合室では、2メートル以上離れて座ってもらいます。

手についた飛沫は、素早く手洗いで流しましょう。手についたり、触ったりしただけで感染



するイメージがありますが、人の健康な皮膚は、強固な防御能で守られていて、ウイルスや細菌も簡単に人体の中に入ることにはできません。加えて手洗い洗

剤があれば鬼に金棒です。また、細菌は乾燥に弱く、逆にインフルエンザなどは湿気に弱い。手指や洗い物はよく乾かし、暖房の部屋には適度な湿気を加えることはよい対処法です。

さらにスポーツ習慣で免疫力を高められているみなさんは、多少の感染源は撃退できるでしょう。よく寝て、よく食べて、よくスポーツをしている、健康なみなさんの白血球やリンパ球は、機能が高いはずですよ。

今年はすでに、インフルエンザの流行期に入りました。ボウリング後だけでなく、普段から手洗い習慣を發揮して、風邪をひかないようにしましょう。

日本のボウリング史を彩る

レジェンドたちの肖像

File.9 並木恵美子

(2017年殿堂入り)

“花のトリオ”に立ちはだかった「憎らしいほど強い」稀代の仇役



▲ヒール(悪役)的な立ち位置で70年代のボウリングブームに貢献した並木プロ

で初優勝を飾ると、以後はハイペースで勝ち星を量産。71年には年間15勝を挙げて史上初の1000万円プレーヤー(現在の貨幣価値では約6000万円に相当)となり、一般メディアでも大きな話題となった。

憎らしいまでの強さに、当時は女子プロファンの間で公然とヒール(悪役)視され、ときにプロ仲間からも疎まれたが、“花のトリオ”(須田、中山、石井)VS並木という明快な対決構図は、試合の興趣を大いに盛り上げ、テレビ観戦のファンを熱狂させた。71年のNTV杯では、前年の中山プロに次ぐTV決勝パーフェクトVの快挙を達成(決勝の相手は須田プロ)。その瞬間の視聴率は、裏番組のプロ野球中継(巨人戦)を超えたという。

通算勝利数は36。これは斉藤志乃ぶ(3期/75勝)、須田(43勝)両プロに次ぎ、中山プロ(33勝)を上回る歴代3位の記録だ。

1949年(昭和24年)1月27日に東京都生まれ、今年古希の誕生日を迎えた並木恵美子プロ。アマチュア時代は無名ながら、20歳のときに開催された第1期女子プロテストに挑んで見事合格。須田開代子、中山律子、石井利枝、海野房枝に次ぐ成績でライセンスNo5を獲得した。デビューイヤーは未勝利に終わるも、70年4月の月例競技会

転球 Time Trip

24年前に

1995年12月19日

須田開代子プロ最期の大舞台となった業界挙げての「ボウリング合同葬」

1995年11月21日(現地時間)、米国バージニア州の実姉宅で、病氣療養中だった須田開代子プロが心不全のため急逝(享年57)。1期生として女子プロの草創期をけん引し、後年はJLBC代表、JPBA副会長として業界の発展に尽力してきた須田プロの死は、一般メディアによって大々的に報じられた。

約1か月後の12月19日には、「JLBCプリンスカップ」の開催センターでもある東京・品川プリンスホテルB/Cで、業界挙げてのボウリング合同葬が催され(会場は西武グループが無償提供)、全国からファン・関係者、故人ゆかりの各界著名人ら

約2800人が弔問に訪れた。豪華な祭壇がレーン上に設置され、その中央で穏やかに微笑む須田プロの遺影が参列者の涙を誘った。“花のライバル”中山律子プロが弔辞を述べ、後進の女子プロ仲間は、ボウリングウェアに身を包んで献花のあと、反対側のレーン(当時の品川はコンコースを挟んで左右背中合わせに各52Lあった)に移動して哀悼の一斉投球。美空ひばりの名曲『川の流れのように』をBGMに、スコアビジョンには在りし日の勇姿が映し出された。「ボウリング合同葬」は、偉大なる女子プロボウラー・須田開代子の最期の大舞台となった。



▲女子プロを代表して弔辞を述べた中山プロ